



詩篇

詩篇22篇・十字架上での祈り

22 どうして、私をお見捨てになったのですか。
 23 離れてを救いにならないのですか。
 24 わが神、星、私は呼びます。
 25 しかし、あなたは答へになりません。
 26 私は驚いて、いられせん。
 27 けれども、あなたは聖であられ、
 28 イスラエルの賛美を住まうとせられ。
 29 私たちの先祖は、あなたに信じていました。
 30 彼らは信じて、あなたは彼らを助け出されました。
 31 彼らはあなたに、彼らに助け出されました。
 32 彼らはあなたに信じて、彼らは恥ぢませんでした。
 33 しかし、私は助けられず、人間ではありません。
 34 人のしほり、民のさけずみです。
 35 人を見る者はみな、私をあざけります。
 36 彼らは私をとりがせ、私を罵ります。
 37 彼らのお笑ひに入りぬるのだらう。
 38 彼に助けを出したらよい。
 39 彼に救ひを出させよ。
 40 彼の心に入りぬるのだらう。
 41 しかし、あなたは私の母の胎から取り出しな方。
 42 母の乳房に頼り頼り頼りました方。
 43 生まれる前から私はあなたに、ゆたはられました。
 44 母の胎内にいた時から、あなたは私の神です。
 45 どうか、遠く離れないでください。
 46 苦しみが近づいており、助けを求めないのです。
 47 数多い雄牛が、私を取り囲み、
 48 バシヤンの強いの、私を踏みました。
 49 彼らは私に向かつて、その口を開きました。
 50 私は、水のように注ぎ出され、
 51 私の骨々はみな、はれまじした。
 52 私の心は、うろたふたふたなり私の内へ落れました。
 53 私の力は、土塵のかげのなり、かききり、
 54 私の舌は、土塵のごとくついでいます。
 55 あなたは私を死のちりの土に置かれまします。
 56 天と地も私が取り寄せ、
 57 悪徒とも私の群れが、私を取り寄せ、
 58 私の足を、引き裂きました。
 59 私は、私の骨を、みな数えることができず、
 60 彼らは私をながめ、私を見います。
 61 私は私の尊物を互ひに分け合ひ、
 62 私の一つの尊物を、互ひに引き合ひます。
 63 まづ、あなたは遠く離れなでください。
 64 私の力を、急いで私を助けください。
 65 私のいのちを、大の手から、
 66 獅子の口から、野牛の角から、
 67 あなたは私に奪えてくだきます。
 68 私は、御名を私の記念に、に語りかけ、
 69 会衆の中で、あなたを賛美しましう。

31. 私のたましい御手にゆだねます。

22 主を恐るる人よ、主を賛美せよ。
 23 ヤコブのすべての子よ、主をあがめよ。
 24 イスラエルのすべての子よ、主の御名の御を
 25 ささすこととなく、いとことなく、
 26 御を讃めしめしなかつた。
 27 わし、彼が助けを呼び求めるとき、
 28 聞いくだした。

29 地の絶望な者もみな、食べで、伏し拝み、
 30 ちり下る者みな、主の御前に、ひれ伏す。
 31 おのれのいのちを保つとのきなきいしも、
 32 子孫たちも主になす。
 33 主のことが、次の世代に語りられよう。
 34 彼らは来て、主を讃められた義を、
 35 生まれてくる世に告げ知らせよう。

22 会衆の中で私の賛美はあなたから出たもので
 23 私は主を恐るる人々の前で私の誓いを果たしまし
 24 主は、食べて、満ち足り、
 25 主はねめあめるとき、主は賛美しましう
 26 あなたがたの心が、いつまでも生きまじよう

22 会衆の中で、あなたを賛美しましう。

22 主を恐るる人よ、主を賛美せよ。
 23 ヤコブのすべての子よ、主をあがめよ。
 24 イスラエルのすべての子よ、主の御名の御を
 25 ささすこととなく、いとことなく、
 26 御を讃めしめしなかつた。
 27 わし、彼が助けを呼び求めるとき、
 28 聞いくだした。

29 地の絶望な者もみな、食べで、伏し拝み、
 30 ちり下る者みな、主の御前に、ひれ伏す。
 31 おのれのいのちを保つとのきなきいしも、
 32 子孫たちも主になす。
 33 主のことが、次の世代に語りられよう。
 34 彼らは来て、主を讃められた義を、
 35 生まれてくる世に告げ知らせよう。

22 会衆の中で私の賛美はあなたから出たもので
 23 私は主を恐るる人々の前で私の誓いを果たしまし
 24 主は、食べて、満ち足り、
 25 主はねめあめるとき、主は賛美しましう
 26 あなたがたの心が、いつまでも生きまじよう

kurabeteyomu.com
2013.3.3
@kannokazuhiko

詩篇22篇「わが神、わが神、どうして、わたしをお見捨てになったのですか。」というイエス様の十字架上のことばの一つとして有名な詩篇です。十字架上のことばが7つありますと言われたりしますが、この詩篇の中に十字架のストーリーを思い出すようなところがたくさんありましたね。

直接引用されている「わが神、わが神、どうして、わたしをお見捨てになったのですか」とか、「私はかわく」というのは、この詩篇からの引用ではありませんけど、かわいているというのが14節、15節のところにありますね。ヨハネに、あなたの母です、あなたの子ですという母に抛り頼ませるというのも、もしかすると思ひ出させるような言い方かもしれません(9,10)。くじ引きにして着物を分けるとか、自分で救ってみるとか、たくさん十字架のストーリーを思い出すところがあります。

まずは22篇を分析して、その十字架上での祈りを…。1節を引用していますが、1節を引用すれば、22篇全体を引用しているということはわかって引用していますので、そのことを見ないといけません。

22篇全体は大きく2つに分けられる。この段落の構成がわかるように、字下げしてあります。1から3と20から22。22節「御名を私の兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しましょう」という言い方が苦しみの中のことばから脱出したような感じなので、22節からが後半だと言う人がほとんどですけれど、このように分析してみると、そうじゃないでしょということがわかると思います。

いずれにしろ、前半は苦しみで、後半は賛美だという2つ別々の詩篇に見えるくらい違うものに見えます。1から3の「救うこと」「答えてくださらない」「イスラエルの賛美に住んでいる」。20からのところは、「救い出してください」「答えてくださいます」「賛美します」という形で、出だしと終わりが構成されています。

その苦しみは何ですかというところが、4節から10節、11節から19節、この図でいうと青い丸がついているところには、接続詞が入っていますので、前のところを受けてまだ話が continuing しているということも尊重して、このように区切りがつけられています。

4節からのところは、信仰の戦いです。神様に信頼している。しかし、その信頼を「その信頼している神は偽りだ」と言って神様から離そうとする攻撃、さげすみ、あざけり。実際に裸にされて恥を着せられている状態。

その問題と、11から19のところで問題とされているもう一つのことは、敵が攻撃している、牛に囲まれている、ししが噛み付いてくる、犬が取り巻く、そして、骨々、骨というように言われているところですが、この20から21のところで、犬とししの口と牛の角ということで、苦しみのことが要約されています。敵、悪者からの攻撃、自分の中の、自分と神様との関係、その信頼関係に対して偽り者が攻撃してくる。神様が助け主である、守ってくれるはずなのに、その守りがいないかのように犬どもが攻撃してくる。外からの敵と中の敵、偽り者と悪者の攻撃だということが言えると思います。

十字架上での苦しみ、神様が離れているときの問題は、神様に捨てられた、神様との信頼関係が失われたのではないかという問題。それと、神様がいないので敵から攻撃を直に受けてしまうという問題。この二つが問題にされている。

そして急に、23節からは「賛美しよう」「賛美しよう」「全世界をほめたたえよう」というふうに変わります。22節と23節のところを見ると、イスラエルの賛美に住まいにしている。兄弟たちの中で賛美しますという言い方がありますが、これは、苦しみの中で確信をもって告白していることと、救われた時にこれをしますという誓いのことばというふうに考えられますので、この苦しみの段落のほうに入っているのだろーと思います。

その苦しみから救われたと言ったときに、主を恐れるものよ、賛美しなさい。ここでは、「主を恐れる者」「主を恐れる者」「賛美」「賛美」「賛美」「悩む者」「悩む者」というようなくくりになっていますね。27からのところは、「国々」「国々」「伏し拝む」「伏し拝む」「すべて神様のなされた義」完成された義ということで構成されています。

前半のところは、悩む者が呼んだ時に、必ず答えてくださるというその憐れみがなされましたというのがこちら、救いのほう、賛美の中の前半です。こちらは、その救いが全世界にわたっている、王の王であることがあらわされたというのが、こちらの後半です。

ですから、恥を着せられてはくしめを受けていることに対して、賛美が変わっている。犬に攻撃されていたのに、犬も全部含めてひれ伏しているという前半の問題が、後半で解決されているというような構成に全体がなっています。

十字架上のことばで、ヨハネの福音書の中で「完了した」という言い方があります。「完了した」ということを言えば、私の働きはすべて終わったという言い方だというふうに福音書の文脈の中でも読めるけれど、「完了した」ということばと直接同じではないのですが、22篇の最後は、新改訳で見ると、「主のなされた義を民に告げよう」

というふうになるのですが、これは、ここにヘブル語がついています。これを見ると最後が「なぜなら、主は成した」ということばで終わっているのです。それは、つまり、まことに神様は救いの義をなしてくださったというところで22篇は終わっていますので、「完了した」という言い方をヨハネでよめば、22篇全体を引用しているのだということもわかると思います。

ということで、全体の22篇だけをみたときの分析というのは、前半に苦しみがあって、後半は賛美で終わるという構成になっています。じゃあ、これを書いた人は誰なのかということは、この詩篇を理解する上で非常に重要です。それは、また別のビデオで説明します。

詩22 (十字架上の7つの言葉)

2013.3.1

他の18篇のヨブ、エリヤ
では律法? 大祭司、義王
ミカセフク

- ・ 22の分析: 死の中で信頼、救いの賛美、
- ・ 22の巻の中での位置づけ: 王は羊飼ひ、民は羊に任せ、/ 岩を羊飼ひに信頼せよ、
- ・ 22と十字架:
 - ・ わが神、見捨てたまへ、 31:5 わがたまへを御手にゆだねます、
 - (福音書) 22:31 主はなした、 22:9-10 母にゆだねた、
 - 22:15 かわく、
- ・ 22と手紙:
 - 1ペテロ2:12 御名を常に告げ、教会を賛美、
 - 2:9-10 子たちの代価として書し、
 - 17-18 あわれみ深い大祭司
 - 5:7 大きな叫びゆえに救われた、
 - 5:1-10 大祭司、ミカセフク、
 - 12:28 感謝しよう、13:15 賛美のいけにえ、
 - 13:20 永遠の契約の血による年の大収穫、

[主の祈り]

- ・ 御名を常に告げ、3, 22
- ・ 御国 27-31
- ・ みこと 23-26
- ・ 1ヤン 26, 29
- ・ 罪の赦し 1-10
- ・ 悪者が救う、11-22